

『おんぶかあちゃん』

近藤久美子

アリス館（2004年4月発行）



そう言えば最近赤ちゃんをおんぶしているお母さんを見ることは、ほとんどありません。おんぶかあちゃんは人間界では絶滅危惧種になってしまったのでしょうか。でも、クモの仲間ではおんぶかあちゃんは今も健在なのです。

うまれにうまれた63匹もの子どもたちを自分の背中に負い、子どもたちがそれぞれの世界に飛び出していくまで守り育てていくクモ、それがウヅキコモリグモ。近藤久美子さんの絵本『おんぶかあちゃん』は、そんなたくましくも健気なかあちゃんを明るく描いています。マンガタッチながら、細かい吹き出し、子グモのつぶやきなどを読んでいくととっても楽しくなります。そして自然界には大切に子

どもを育てている生きものもたくさんいることがわかります。カメムシ、コオイムシ、ザリガニ、…。命をつないでいくためには、子どもをしっかりと育てなければならぬのです。

ジーンとくるのは、子別れのシーンです。子どもたちは自分の繰り出した糸につかまって、風に乗って散っていきます。「元気でね!」と見送るかあちゃんグモ。私もこんなきっぱりした子育てをしてきたかなあ・・・と反省しきりです。

緑地でも、木の枝についたクモの糸の塊を見かけることがあります。何かうごめいているような怪しいその塊をつついてみると、中で小さなクモの子がパーっと散らばっていきます・・・が、しばらくするとまたそろそろと集まってくるようです。夕陽にきらきら輝く糸に乗って新天地を目指すクモの子どもたちを一度見てみたい、まだその夢は果たせていません。